

# 北海之光

3月号 北海道教区報

ハレルヤ 新しい歌を  
主に向かって歌え  
詩編149編1節

発行所 北海之光社  
001-0015 札幌市北区北15条西5丁目1-12

日本聖公会北海道教区事務所

電話 011-717-8181

FAX 011-736-8377

E-mail:hikari@nssk-hokkaido.jp

http://www.nssk-hokkaido.jp

発行人 植松 誠

## 未知の地に、主の光に照らされて

北海道教区

主教 ナタナエル

植松

誠

北海道教区の主に在る兄弟姉妹の皆様。

私が主教に按手され、北海道教区の教区主教に就任して以来、二五年が経ちました。当初、二五年はとても長いと思っていましたし、実際、それは本当に長いものでした。しかし、今、自分の定年退職の時を迎えて、この二五年間はあつという間に過ぎたようにも思います。

二五年前、自分が北海道教区の主教に按手された時の思いを今も鮮明に覚えています。「なぜ自分が主教に…」という思いと、家族のこと、自分の年齢のこと、主教としてやっていけるのか、待ち構えているであろう多くの問題のことなどを考えて、複雑な思いと心配で胸はいっぱいでした。しかし、その時、私は聖霊の強い促しのようなものを感じました。主教選出に至る過程で、多くの人の祈りが

あつたということを謙遜に受け止めなくてはならないと。自分が主教の器ではないという

こと、つまり、能力も指導力も、そして信仰でさえ足りない者であることは自分が一番わかっていました。自信も全くなく、本当に逃げ出したいくらい…。しかし、そのことを言い続けることが正しいかどうかを考えました。北海道は私にとって限りなく遠い、未知の地でした。

創世記のアブラハムは召し出しを受けた時、行き先も知らずに出発しました。出エジプトのモーセも自分自身の弱さや欠点の故に主の召し出しに初めは抵抗しましたが、それでも結局は神様のお導きを信じて、紅海、そしてシナイの荒野に踏み出しました。クリスマス物語に出てくる東の国の占星術師たちも、同じく行き先を知らずに、輝く星に導かれるままに砂漠に歩み

入ります。「自分はその器ではない」、「自分には別の考えがある」という当時の私の迷いや心配は、あくまでも自分が中心であり、自分に頼ろうとする不信仰から出ていたことでした。私には無理だ、出来ないということには申すまでもないことで、そこから先は主のお働きの領域であり、主の力が弱さの中でこそ十分に発揮される(Ⅱコリント

一二・九) ことに、二五年前、私はすがりような思いで身を投じました。その後の二五年間、私は毎日、このことを体験してきました。主教としての器…、それは私自身の中では最後まで不十分であり不合格だったと思います。でも、それは別の見方をすれば、最高のお恵みであつたと言えます。日々、自分の弱さと向き合い、自信を無くし、絶望に陥るたびに、主がみ腕をもって私を立たせ、背中を押し出してくださつていたことが今はつきりとわかるからです。それは、いろいろな形をとって私に働いてくださいました。聖職や信徒の方々の祈りであつた

り、優しく温かい言葉であったり、またある時には厳しいお叱りや忠告でもありました。今、それらに思いを巡らしながら、皆様からの深い愛とお支えに心から感謝いたします。

これは決して私の信仰の歩みだけにとどまらず、皆様お一人おひとりにも同じことが起きていると思います。信仰が弱く、自信がなく、能力もないということとは、そこに神様のお働きになる余地がいっぱいあるという福音です。「私には出来ません」、「それは私のすることではありません」と言うのではなく、まさにそれだからこそ、「主よ、私にここにいます。どうぞ私をあなたがお用いください」という生き方。それこそが宣教です。

北海道にひととき輝く光は、これまでも私たちを照らしてきました。そしてそれは私を、そして皆様を今も新たな未知の地に招いています。北海道教区の上に、皆様の上に主の豊かなお導きと祝福をお祈りいたします。



—心の窓をひらく—

# 福音と私(二五六)

今、なぜ、私はキリスト者として生きるのか

札幌キリスト教会信徒

ルツ 植松 三千代



## 「私の好きな聖句」

「歩む道を主にゆだねよ 主に信頼すれば成し遂げてくださる」

(祈祷書 詩編三七編五節)

私は一九五三年、大阪に生まれました。仏壇も神棚もある普通の家庭で、両親と九歳上の姉、六歳上の兄のもとで甘やかされて育ち、人見知りの激しい子どもだったようです。

私と教会との最初の出合いはキリスト教会付属幼稚園に入園した時でした。はつきりと覚えているのは礼拝堂で、時々並んで連れて行かれる建物の、少し薄暗く、不思議な形の窓から差し込む光が「主我を愛す」の歌とともに強烈な印象で残っているのです。

も、愛に溢れた方々でした。

行き始めてまだ一年も経たない中学一年の六月、母が脳溢血で倒れ一晩で亡くなりました。四三歳の若さでした。母親べったりの私でしたので、その時は子どもなりに、ああ、もうこれ以上寂しいことは私には起らないだろう…と冷たく茫然と思つたものでした。母の遺体が焼かれ、灰になつてしまつたのを見て、人間ってこんな灰になつてそれで終わつてしまふのだろうか…と、恐ろしいような、空しいような、とても辛い気持ちになつたことを覚えています。

そのことから洗礼を考へるようになり、人は死んで、ただ灰になつて終わるのではない…ということ、自分なりに確認したかつたのかもありません。

それから一〇年後、夫と出会つて婚約し、聖公会に転籍することにりましたが、それはただ、結婚というためだけではなく、何か少しその福音交友会での信仰生活に疑問が芽生えていたからでした。

た。その教えの厳しさゆえに離れざるを得ない友人もいました。そんな中で、何かもつと大切なことがあるのではと、いう漠然とした物足りなさがあつたのです。宣教師の先生方は「聖公会はずばらしいですよ、安心していつてらっしゃい」と送り出してください、婚約後、私は大阪教区の恵我之荘聖マタイ教会の信徒となり、戸惑いを感じながらも聖餐が中心の礼拝に深い感動を覚ええました。

り、人は死ぬと灰になつてそれで終わるのだろうか、一三歳の時の震えるような恐ろしさから信仰に導かれ、迷うたびに何度も歩む道を示されて、今に至ります。私にとつて福音とは「生きることはキリストであり、死ぬことは益なのです」(フィリピー…二一)であることを、改めて確信します。

一方、やはり福音交友会の一〇年間は私にとつてかけがえのないものでした。そこで叩き込まれてきた礼拝を守る姿勢や献金の意味、それらは私の信仰生活の基礎となつていきます。そして何よりも、その厳しさの中で宣教師の先生方の溢れるような愛に育てられたこと、教派を超えて、信頼の内に私を押し出してくださつた先生方の、大丈夫、行きなさい、主があなたと共におられますよという強いメッセージがあつたのです。姉に導かれて教会の門をくぐ

新たに夫とともに遣わされる地に歩み出しますが、まさに「歩む道を主にゆだねよ、主に信頼すれば成し遂げてくださる」と唱えながら、今までの北海道の地におけるたくさんのお恵みに感謝しつつ踏み出します。

北海道の地も、北海道の人たちも大好きでした。離れがたい思いで去るといふことはとても幸せなことなのだ自分なりに聞かせて、溢れる感謝のうちに歩み出します。長い間本当ありがとうございます。



常置委員会報告

第四回二月七日

《協議事項》

- 一、二〇二二年度教区諸役員確定の件
- ・一部訂正後確定した。
- 二、人事異動の件



主教室より

最後の「主教室より」となりました。

主教に就任して数年後、ある信徒から「北海道難読地名番付表」をいただきました。重蘭窮、入境学、窓床、賤向夫、などなど、横綱級から十両級まで八〇もの地名が続き、「全部読めるよつにならないうちは北海道から出てはいけません」とその方の手紙がついていました。上記の四地名はみんな釧路町にあります。が、それぞれ、ちぶらんけうし、ごいまない、ふがいま、せきねっぶ、と読みます。二五年間てついにこれらの八〇の地名はすべて読破し

・主教からの提案に同意した。

三、笹森田鶴主教被選者の北海道教区への移籍の件

・教区籍の移動時期について東京教区と打ち合わせる事とした。

四、主教接手式の件

・準備状況を確認した。

五、退職者の件。

・植松主教、阿部恵子司祭、金内淳子副主事の退職にかかわる諸手続きについて確認した。

六、四月以降の教区事務所体制・給与の件

・新たな給与体系とその財源

ました。読めるようになるまでは出ていくなというその信徒にも、もう胸を張れます。

今から三六年前、弟から聞いた父の退職した日のことを思い出します。中部教区主教であった父の定年退職の日の夜一二時、父と母と弟は主教邸の礼拝堂に座り、感謝の祈りを捧げました。祈りが終わり、しばらくの沈黙の後、父は母の方を向き、母の手を取って「ありがとうございまして」と深々と頭を下げました。ふだん、母に気の利いたことをあまり言うことのない父です。しかし、この時の「ありがとう」には父の思いのすべてが込められていたのでしょう。父も母も、そして弟も泣いたとのこと。

私の退職の日はどのような迎えるでしょうか。万感の思いを込めて、まずは神様に「ありがとうございませう」と申し上げ、そして妻の三千代さんに、そして、その場にはもちろんいらつしやらない教区のすべての聖職・信徒に、(すでに天に召された方々にも)、深々と頭を下げて、「ありがとうございまして」と申し上げたいと思います。それしかないと思います。

さようならば申しません。私たち二人は、心を北海道にも残していきたい。この地で与えられた驚くほどの豊かなお恵みを感じしながら、新たに主によって遣わされる地に参ります。インマヌエル、ハレルヤ、アーメン。

主教 ナタナエル 植松 誠

について協議した。

七、ニセコ教区所有地の件

・聖マーガレット教会が管理するニセコの教区用地について、聖マーガレット教会の意向を踏まえ、売却の方向で、今後の作業を進めることとした。

八、補修が必要な牧師館の件

・牧師異動に伴って生じる牧師館の補修について協議した。

堅信式受領

おめでとう

札幌聖ミカエル教会

マリア 杉野 汐音

アグネス 吉井 颯

グレース 吉井 華

(二月二七日)

十 教区逝去教役者 記念聖餐式

四月六日(水)

午前一〇時三〇分

於 主教座聖堂

次の方々を覚えて祈ります。

司祭 ジョン・バチラー

一九四四年四月二日

司祭 宇田 梅太郎

一九五一年四月三日

主教 上田 一良

一九七二年四月五日

主教 天城 英明

二〇一〇年四月五日

伝道師 ルイザンデレス・バチラー

一九三六年四月六日

司祭 荒砥 琢哉

一九三一年四月一三日

伝道師 田中 末吉

一九七八年四月一四日

伝道師 芥川 清五郎

一九二七年四月一五日

司祭 木村 信一

一九七八年四月一五日

司祭 小貫 安貞

一九七一年四月一六日

伝道師 白田 うめ

一九五八年四月一八日

伝道師 メリー・シエーン・オックスラド

一九二二年四月二〇日

伝道師 辺 泥 五郎

一九五四年四月二三日

司祭 山田 安間

一九二四年四月二四日

司祭 小貫 嗣夫

一九八一年四月二五日

伝道師 江賀 寅三

一九六八年四月二八日

伝道師 バチラー 八重子

一九六二年四月二九日

司祭 篠塚 長治郎

一九五〇年四月三〇日



## 巡礼する人

～植松誠主教様への謝辞～

北海道教区常置委員長

司祭 ペテロ 大町 信也

一九九七年三月二二日に、北海道教区主教に按手されて以来、聖餐式の代祷の中で「ことに私たちの主教ナタナエル植松誠」と祈ってきた日々が、今、終わろうとしています。

私は、この二五年間を振り返るため教区の「歴史文書保管庫」から「北海の光」のバックナンバーを取り出し「主教室より」と教区会における主教告辞を中心に読み返しました。まるで家族のなつかしいアルバムを飽きる事なく眺めるように、時が経つのも忘れて読みふける甘美な時間でした。この中で、私が強く感じたのは「巡礼する人」としての植松主教の姿でした。アツシジヤサンチャゴへの巡礼の旅を主教様と一緒になさった方も多いかと存じますが、私には教区主教としての歩みとそのお働きそのものが「巡礼者」の姿に重なって思えてなりませんでした。

首座主教としての巡礼

植松主教は、二〇〇六年よ

り七期一四年にわたって首座主教の重責を担われました。二〇一一年の東日本大震災に際して植松主教は、被災者支援「いっしょに歩こうプロジェクト」に粉骨砕身されました。また福島第一原子力発電所の事故を発端に、日本聖公会は、「原発の無い世界」を求めて、脱原発を世界の聖公会に先駆けて公にしました。また首座主教退任直前の二〇二〇年には、管区総会において、宣教協働区と伝道教区の設定により日本聖公会の長年の課題であった教区再編への道を大きく開きました。

世界宗教者平和会議日本委員会理事長として、宗教・教派を超えて宗教者たちの世界平和への行動をリードして来られた事も忘れてはなりません。植松主教は、正に不確定な時代にあつて、一歩前へと進む勇氣を必要とする、未知の旅「巡礼」へと日本聖公会を導かれました。私たちは、このような植松主教のグロー

バルなお働きを、背後で支えてきた事を誇りに思い感謝します。

教区民の内を歩む巡礼者

グローバルな働きに大きな

足跡を残された植松主教ですが、私たち北海道教区民にとつては、徹底してローカルな教区主教であられた事を心から感謝したいと思えます。北海道の地に初めて暮らす事となられた植松主教は、北海道の自然と風土、そこに過ごす人々の生活に素直に驚き、そして何よりも北海道の地で育てられてきた私たちの信仰の素朴さに感動し、愛してくださいました。首座主教として、週に二度も東京と往復される事も少なくなかった日々の中で、道内の教会を年間二度巡回なさる事を何よりも大切になさいました。巡回は千キロに及ぶ事もあり、吹雪の中の巡回も数限りなくあった事を覚えます。私たちは、そのような主教様の巡回を心待ちにして聖餐を共にし、愛餐を共にし、語らい、病床を始めとする個人的な訪問を受けるなど、主教様が信徒一人一人との交わりの中に深く身を置いてくださった事を忘れま

せん。「主教室より」のバックナンバーを見てみますと、その多くが洗礼式や按手式における喜び、看取りの場での感動、そして逝去者を偲んでの神様への賛美、に割かれています。私たちは、教区と教区民一人一人の内を、謙遜に歩まれた「巡礼者」としての主教の姿を見出します。

同行者に呼びかける巡礼者

植松主教の在任中、一六名の者が植松主教より聖職に按手されています。そこには、四人の女性司祭が含まれています。植松主教は、教区会の主教告辞の中で、繰り返し、聖職への献身者が与えられるように呼びかけてこられました。この呼びかけは、なお私たちが聞き続けなければならぬ呼びかけです。そして、植松主教が二五年間、一貫して呼びかけられたのは「宣教の原点であるキリストの福音を生きた喜び」を、「自分の言葉」で証しし続ける事の大切さでした。宣教とは福音によって「生かされる人々の生き方そのもの」であるという言葉によって、どれほど私たちが励まされたことでしょうか。そしてこの言葉は、これ

からも私たちに励まし導き続けるのだと信じます。私たちも主の道を証ししつつ、与えられた「巡礼」を旅したいと思えます。

旅立たれる巡礼者

植松主教は、ご退職後は中部教区の岡谷聖バルナバ教会に赴かれます。「地方の小さな教会で始まったこれらの方々の信仰。それは華々しい宣教には見えなかったかもしれません。しかし、私は今思っています。確かにすごい宣教をしていただのだ。」この言葉を私たちがのために残された植松主教様は、新たな地でも、その事を経験なさろうとされています。

最後に、植松主教様の歩みを、いつも見守ってくださった神様に感謝すると共に「巡礼」の同行者として、三千代さんがいてくださった事に感謝したいと思います。お二人から与えられた恵みに、心より感謝しつつ、お二人の新たな旅路の上に神様の祝福をお祈りしたいと思います。



## 公 示

救主降生2022年2月25日

日本聖公会北海道教区

主教 ナタナエル 植松 誠

下記の人事異動を行います。

司祭 エリザベツ 阿部 恵子

2022年3月31日付で、帯広聖公会牧師及び帯広聖公会幼稚園チャプレンの任を解き、定年退職とする。4月1日付で、同教会嘱託司祭及び同幼稚園嘱託チャプレンを委嘱する。(委嘱期間1年)

司祭 フランシスコ 飯野 正行 2022年4月1日付で、紋別聖マリヤ教会管理牧師に任ずる。

司祭 ヨハネ 池田 亨

2022年5月31日付で、聖マーガレット教会牧師の任を解き、6月1日付で、小樽聖公会牧師に任ずる。

司祭 ノア 上平 更

2022年4月1日付で、函館聖ヨハネ教会及び今金インマヌエル教会管理牧師に任ずる。

主教 ナタナエル 植松 誠

2022年3月31日付で、平取聖公会、新冠聖フランシス教会、函館聖ヨハネ教会、今金インマヌエル教会、紋別聖マリヤ教会の管理牧師、また紋別幼稚園チャプレンの任を解き、定年退職とする。

司祭 ベテロ 大町 信也

2022年4月1日～22日、平取聖公会及び新冠聖フランシス教会管理牧師に任ずる。

司祭 ヘレン 木村 タ子 2022年4月1日付で、道北分区における協働司祭に任ずる。(任期1年)

司祭 マリア・グレイス 笹森 田鶴(主教被選者)

2022年4月1日付で、東京教区より北海道教区に聖職籍を受け入れ、同日より4月22日まで主教座聖堂付とする。

2022年4月23日(主教接手・就任日)付で、平取聖公会及び新冠聖フランシス教会管理牧師に任ずる。

2022年6月1日付で、聖マーガレット教会管理牧師に任ずる。

司祭 コルベ 下澤 昌 2022年6月1日付で、聖マーガレット教会協働司祭に任ずる。

司祭 クリストファー 永谷 亮

2022年5月31日付で、小樽聖公会牧師及び旭川聖マルコ教会管理牧師の任を解き、6月1日付で旭川聖マルコ教会牧師及び旭川頌栄保育園チャプレンに任ずる。

聖職候補生 エリサベト 三浦 千晴

2022年5月31日付で、札幌キリスト教会勤務を解き、6月1日付で、札幌キリスト教会協働勤務を命ずる。

司祭 サムエル 吉野 暁生 2022年4月1日付で、帯広聖公会管理牧師に任ずる。

司祭 パウロ 内海 信武

2022年4月1日付で、平取聖公会及び新冠聖フランシス教会での嘱託司祭、またバチラー保育園嘱託チャプレンを委嘱する。(委嘱期間1年)

司祭 アンデレ 甲斐 博邦

2022年4月1日付で、深川聖三一教会での嘱託司祭及び深川あけぼの保育園嘱託チャプレンを委嘱する。(委嘱期間1年)

司祭 ピリポ 越山 健蔵(東北教区退職司祭)

2022年4月1日付で、紋別聖マリヤ教会嘱託司祭を委嘱する。(委嘱期間1年)

(なお、2022年4月1日付で、学校法人聖公会北海道学園認定こども園紋別幼稚園園長を委嘱する。

注：教区人事ではなくて学校法人人事)

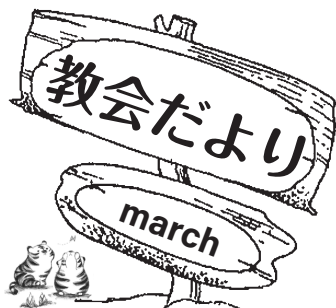
司祭 ミカエル 広谷 和文

2022年4月1日～5月31日、旭川聖マルコ教会嘱託司祭及び旭川頌栄保育園嘱託チャプレンを委嘱する。

司祭 ダビデ 藤井 八郎

2022年4月1日付で、函館聖ヨハネ教会での嘱託司祭及び今金インマヌエル教会での協働嘱託司祭を委嘱する。(委嘱期間1年)

以 上



▽旭川聖マルコ教会

コロナがなかなか収束しません。三回目打った？が挨拶のような年齢層のマルコの信徒もみな元気に過ごしています。せっかく歌えるようになった聖歌も今は黙読。耐え忍んだ後の喜びを期待しましょう。礼拝のオンライン配信は大友愛美さんが労してくださり、毎週幾人かが自宅礼拝に参加しています。第二週は管理牧師の永谷先生が来旭され、一月に訪問された小笠原諸島のお話を聞かせてくださり、礼拝後に教会委員会を開きました。保育園はコロナに負けずに冬を楽しみ、婦人会手作りのおやつを頂いて、元気に卒園・修了を迎える準備をしています。

主教様へ感謝

今年の二月は春のような陽差しです。二月はマルコ教会定例の主教巡回月でした。冬季厳寒時期にもかかわらずいつも「やあ、皆さん。お元気でしたか」と来てくださり、そのような主教さんをお迎えする事がマルコ民の喜びでもありました。なのに「主教アワー」が短時間で、すみませんでした。その時間は、貴重な体験談の拝聴や新しい聖歌の講習がありました。そして三千代さんも一緒に皆声を合わせ楽しい時間でした。「この聖歌は台所に立っていても頭の中で歌い続けるよ」と言われたとおり今も「歌え、ホサナ」と頭の中でくるくる回っています。

いつも「だーいじょうぶ、だいじょうぶ」と信徒の心に慰めと安心と希望を与え、ご巡回のたびに各々に声をかけ、礼拝出席の保育園職員を労われ、常に「教会はあなたの居場所」と教えてくださったこと等、言い切れぬ思い出

と感謝を込めて、「ありがとうございました。」

▽岩見沢聖十字教会

主日の代祷では「私達の精神的支柱である植松誠主教様」とお祈りをお捧げします。その主教様が三月末で退任。二五年間の長きに渡る北海道でのご奉仕に感謝します。そして、主教様を陰ながら支えた奥様の三千代姉にも感謝します。姉妹には奏楽のアドバイスや時には個人的な相談に乗って頂く事もありました。

年に二回の巡回礼拝は私達の楽しみでした。礼拝後の愛の楽会、主教様を中心に笑いの渦に包まれる事も。余りにも楽しいので天国にいるよう



な錯覚にもなりました。

写真は、二〇一三年六月三〇日の巡回礼拝です。主教様ご夫妻の笑顔が素敵ですね。この中には、既にイエス様の元に帰られた方もいらっしゃいます。

▽釧路聖パウロ教会

どうとうその日がやってきました。二月二〇日。植松主教最後の巡回の日です。大分前から悪天候が心配されていましたが、主教は既に到着されていて、笑顔で信徒達をお迎えてくださいました。

礼拝は、午前九時二〇分から保育園の先生たち。一時間に信徒と、二回に分けて…。当日朝、釧路地方は三〇cmのドカ雪で雪に阻まれて出席できない信徒もいましたが、最後の主教巡回とてひと声でも、ひと言でも感謝を、の熱い思いで厚岸から駆けつけた人も。結局総勢四〇人を超える信徒が集まりました。

主教は遠くを見る目で「厚

岸・釧路が私の北海道の原点だったように思います」「今後は長野県の岡谷聖バルバナ教会で奉仕をします」と。

礼拝後、その場でサンクス・セレモニーが行われ、暫し別れを惜しみました。

『植松主教様、二五年間本当にお疲れ様でした。主に感謝です。暴風雪警報の中、高速バスで無事札幌に到着されたとのこと。今後も主が見守り下さいますように』

▽小樽聖公会

主教様と共に歩むことので



主教巡回日(2022年1月16日)





竹花 千明 画

きた二五年の祝福とお恵みに感謝いたします。

お祖母さまが小樽で結婚式を挙げられたことをいつも大切に分ち合ってください。またわたしたち一人ひとりにお声がけくださったりしてとても「身近」な主教様でした。

これからの働きに祝福を、またご健康が永く守られますようお祈りします。

▽札幌キリスト教会

娘が帰宅するなり、主教さんが八角堂を暖炉の火で温めてくれていて、それにね、みさちゃんのために「冬のソナタ」を録音していた！また純

くんが初めて礼拝に出席した時も主教様は礼拝後、「純がいるんだよ！」と驚きながら、本当に嬉しそう。そんなエピソードを皆様お持ちだと思

います。寒い日の八角堂で頂いた三千代さんのカレーやスープの味は忘れることは出来ません。私たちはもう充分すぎる多くの楽しい時間、祈りの時を頂きました。新しい地での活躍をこの地からお祈りしています。

(伊東みゆき)

▽室蘭聖マタイ教会

一九日、教会委員が集まり、会計担当者を囲んで会計の現状について精査を行いました。礼拝の日数も少ないので収入が少ないのは当然のことです。

心配な事が起きました。教会の東側の土台が傷み、壁に亀裂が出来ました。春になってから業者に点検を依頼します。雪の少ない室蘭ですが、二三日、二三日は猛烈な寒波と吹雪に見舞われ、駐車場は三〇センチ以上の積雪で大変

苦劳しました。二七日は大町司祭の司式で聖餐式、礼拝後藤井扶美子姉の逝去一周年の記念式でした。

私の手元に植松主教様と一緒した旅行アルバムが二冊あります。一九九三年五月九日〜二二日使徒聖パウロ伝道の足跡を訪ねる巡礼の旅、室蘭三名参加。次に二〇〇二年一月三日〜七日アツシジ巡礼、室蘭五名参加。何れも貴重な体験でした。普通の観光旅行と異なり、使徒達の実際に活動した記録がそのまま残って居るのです。アツシジの聖フランシスコの働きについては、残っている遺品を見ても、主教様の解説を聞いても、主教様が連続十数年アツシジを訪問されたのが理解できます。

最後に、主教様が北海道の教会を隈なく巡回され、小さな教会の信徒達にも丁寧な接してくださった事を心から感謝します。三千代夫人にも一言お礼を申し上げたいです。主教巡回

の時いつも同行されてオルガニストの役割を果たされ、休んでいる音色が生き返り、礼拝が充実したものになりました。

▽深川聖三一教会

植松主教様は当教会への初めての巡回説教で、「我が家の信仰の起源は深川聖三一教会です」と語られました。私たちは固唾を呑んで次の言葉を待ちました。一挙に私たちと主教様の距離は縮まり、千年の知己の間となりました。主教様の祖父松本正雄牧師は当教会でキリスト教に出会

い、聖職を志されたとのことです。二五年間主教様は私達を兄弟姉妹として愛してくださいました。主教様と一緒にありますと誰もが心は浮き浮きし、笑い声が絶えず、明るくなりうれしくなりました。そのそばにいとあたたかいぬくもりがあり、その楽しいお話にいつしか耳を傾けた私たちは、五つのパンが五千人分になってゆくのを実感し、ここが天国の一部、神の国の

天領地、天国の旗の立つ大使館と、いつもいつも思ったもの

▽帯広聖公会

植松主教様は何と言ってもお説教によって多くの信徒をひきつけていました。私達の素朴な日常を聖書の言葉と結び、わかり易くお話ししてくださいました。信徒は皆、主教さまの来訪を心待ちにしていました。そして、信徒たちの名前や状況をよくご存じでした。そんな主教さまが大好きでした。同時に、三千代さんにも深い親近感を抱いており、主教さまのご来訪時には密かにご一緒に期待していました。

かつて道東婦人会総会が帯広で開かれ、三千代さんの講話を頂いた折、帯広への車中のリハーサルで、主教さまは感動の余り涙が止まらなかったと、後になって伺いました。北海道教区における二五年間はご苦勞が沢山あったに違いありません。「三千代さんがいたから続けられた」と述懐

されたと聞きます。お疲れさまでした。そして心より感謝申し上げます。

▽函館聖ヨハネ教会

一九九七年三月に大きな喜びをもって植松誠主教様を北海道教区にお迎えしてから二五年。北の大地をこよなく愛され、長きに亘る尊いお働きに心からお礼申し上げます。この間に齊藤昭一司祭、下澤昌司祭、藤井八郎司祭をお遣わしくださり感謝いたします。

ご巡錫時には、いつも主教様の力強いメッセージと聖書の学びを通して感謝と喜びをもって聖餐に与ることができました。愛餐会では、一人ひとりに声をかけられ、出席されていない方へも心を寄せてくださいました。これからも

教役者と信徒が一層祈り、心を合わせて宣教に励みます。

▽稚内聖公会(伝道所)

稚内聖公会にとって植松主教様との関りは一言では言い尽くせません。特に、道北四教会合同礼拝の開催時は、い

つもお心に掛けていただき、公務の為多忙を極める中、参加いただきました。八月の最終日曜日と決めていたその日は、必ずかけつけてくださり、

小人数に減った稚内の信徒、いつも案内をさしあげた「イエスの小さい姉妹会」の皆さんに加えて、旭川・深川・留萌そして道内、道外からも含めて約四〇人に近い参加者が集められ、大人数の礼拝を捧げることが出来ました。

今、コロナ禍の為に主にあたる交わりが思うように出来ません。植松主教様との交わりを通して、与えられた大きな恵みに感謝して、今後の主教様のお働きと稚内の弛まぬ歩みを皆様と共に祈り致します。

▽平取聖公会

二五年前の主教接手式でお会いして以来、植松誠主教には数々の思い出があります。先ず第一にはご病気のため接手式に出席できなかった故江口博牧師を、その週のうちに

ただいた時のことです。たまにたま教会に行っていた私も同席しましたが、植松主教が江口先生の手を取り、初めての

出会いなのにまるで千年の弟子のように尊敬と感謝の言葉をかけられていたことを昨日のこのように思い出します。江口先生は「うん、よく来た」とご挨拶を返しなごうでした。

二番目には主教巡回の礼拝後に、牧師館居間での茶話会で楽しく歓談されるとき優しいお顔です。このような思い出に感謝でいっぱいです。植松主教、二五年間私たちをお導きいただき、本当に有難うございました。

▽網走聖ペテロ教会

一信徒として、思い出と感謝を、語らせて頂きます。二五年前に来られた時は現在の教会が建つ前で、岡村トシ子司祭が執事職の時でした。岡村執事が、司祭接手に向け一人礼拝堂で大きな声で聖餐式の練習をされていたと、巡

回説教の中で触れて頂きました。上平仁志司祭からは、教会前の花壇予定区画に車輪が挟まり困って主教様に連絡したと伺った事もありました。

特養入所の故横川菊江姉は、三千代夫人から頂いた葉書をとても大切にしていました。網走聖ペテロ教会に遣わされた全ての聖職の方々に、心を配られておられました。信徒一人一人に声を掛けて頂き記憶に留めて頂きました。新しい聖歌を、沢山教えて頂きました。

頂いた宣教一三〇周年の特待を基に、これからも歩んで行きます。

▽札幌聖ミカエル教会

二月二七日は植松主教様の最後の巡回、九〇名出席。杉野汐音さんの洗礼堅信、吉井颯さん、吉井華さんの堅信式を行う。礼拝後には主教様ご夫妻に教会と幼稚園からささやかな感謝の品を贈呈しました。在任中の二五年間、堅信にあずかった信徒は一二五名に上ります。また、二〇〇六



幼稚園チャプレンを務めてくださり、信徒、教役者への霊的教導、お母さんや職員のための講座も担ってくださいました。これからの牧会者としてのお働きのため、またご健康を覚えてお祈りいたします。心からの感謝を込めて。

▽有珠聖公会

植松主教ご在任中に有珠聖公会の改修工事が行われ、教会の活性化の基となりました。この間に、信徒世代交代も進み、大半の信徒が植松主教様より信徒堅信式を受領し



た者たちとなりました。三年に一度、胆振教会合同礼拝が有珠の当番で開かれるのですが、その際には主教巡回をいただき、有珠聖公会では、ジングスカンを企画したものでした。ある時は、善光寺公園の桜の木の下で、また雨天の時は香川さんの畑のビニールハウスの中で、思い出深い交わりの時を過ごしました。また、主教巡回の折りには、三千代様が必ず同行され、オルガニストをご奉仕くださいました。その時には、有珠の古いオルガンが息を吹き返したように生き生きとした音色となり、小さな群れの賛美を豊かなものとしてくださいました。主教様、三千代様、お元気で。

▽聖マーガレット教会

植松主教様「二五年」感謝。遠くに感じていました。主教様退職。もう現実、私たちの教会は昨年クリスマスに巡回日がありました。コロナ禍の中、沢山の出席者感謝。植松主教様の当教会で最初のクリ

スマスイブ礼拝では、広谷司祭様ご家族、文明ちゃんのサーバーデビュー記念すべき日。緊張でシャッキリが止まらず、また信徒奉事者は祭壇横上に吊ったキャンドル点火が難しく、主教様の笑いの思い出となつていまして。文明ちゃんと言いましても今は妻子ある大人に成長。主教様ご家族の思い出は沢山ある。中からワンちゃんのサントくん。暖かい大阪で過越し札幌の寒さは如何でしたかと聞きたかったです。限りなく思い出があります。

▽留萌キリスト教会

米農家でめつたに畑の外に出ないので、主教巡回は特別な楽しみで張り切つて教会へ行きました。

持ち物が全部盗難にあった話、幼いころ育つた牧師家庭の話、主教になつて里帰りした時にも誠ちゃんと呼ばれた話、父親の腕に抱かれて眠つた至福の時の話など沢山の話

を覚えています。

北海の光の主教コラムを愛読してました。「あなたの怒りはただしいか」今は座右の銘として折に触れて思い起こして自分の心を落ち着けています。

いつも感激する事ばかりでした。何かにつけてお礼の葉書がすぐに届いたこと、畑の家に寄つてくれたこと、風船ゲームで優勝した時におめでとうのハグをしていただいた事！生れてはじめての経験で本当に感激しました。道北の集いでは知らなかつた聖歌を沢山教えていただきました。三千代さんがオルガンで生奏楽をしてくださつたことも、やっぱり感激でした。喜びを沢山いただけたという思い出ばかりです。本当にありがとうございます。これからのご活躍をお祈りしています。いつかまたお会い出来たら嬉しいです。

(マゲダラのマリヤ

小林栄子)

▽今金インマヌエル教会

二月一三日、お忙しい中、この教会での最後の時、皆心ひとつで主教様の説教を聴きました。二五年間もの間力を注いでいただいたのですから、引き止めるのは無理と解つていても残念です。礼拝後少しの時間をとつてもらい、七〇歳の誕生日と奥様への感謝を込めて、似顔絵ケーキ、チョコ、そしてお花を添えて、お祝いを催しました。もし都合が合えば、種の祝福



に立ち寄つてくだされば嬉しく思います。これから始まるお二人の信州での生活が日々平安でありますよう、この教会の皆で祈っております。(天沼彰範)

▽北見聖ヤコブ教会

総会を二月二〇日に行い、四名で困難であつたこの一年を振り返り、痛みに裏打ちされた愛で互いを認め合い、新しい年も作り合い、睦み合う教会として宣教を進めることを確認いたしました。

さて今回は、三月に定年退職をされる植松主教様への「感謝号」ということで、思い出を振り返りたいと思います。

遠いところまで二五年間有難うございました。殊に、冬の大荒れの日は大変だったと思います。九月中旬には葡萄の収穫をいつもしていたのですが、この時にはいつもご巡回くださり、甘い香りに寄つて来る蜂を振り払いながら、一緒に収穫をいたしました。帰りには同方向の方をお送り

くださり、また、逝去された方がいつも座っていた席の写メを撮られる、心あつたかい主教様でした。お元気で！

▽苫小牧聖ルカ教会

主教様にお会いした頃の私は二〇代半ばでしたが、いまだにちゃん付けて呼んでくださる事を嬉しく思っています。ずっと北海道にいてくださると思っていたので、長野県岡谷に行かれる事がまだ信じられませんが、二五年もいてくださったのですね。

現在一九歳になる長男が赤ん坊の頃、両親と稚内の礼拝に出席したのは丁度ご巡回の日でした。ハイハイしていた息子と、見ていた主教様の目が合い、息子は少しの間動きを止めて見つめ返していました。数秒の出来事でしたが、その場面は、私には忘れられない思い出になっています。主教様と三千代さんに声をかけていただくと、心に優しい種が蒔かれたような温かい気持ちになる事が出来ました。本当に有難うございました

た。またお会いできる日を楽しみにしています。どうぞお元気で。(城畑真理子)

▽紋別聖マリヤ教会

〓主教様に沢山の感謝！

遠い雪国に、北海道教区の主教として来られ二五年間、本当にお疲れ様でした。特にこの二年間は紋別の管理牧師として毎月紋別までお越しただいでての聖餐式。沢山のお交わりの時間もいただき感謝でした。よその教会の皆様には大変申し訳ないのですが毎月主教巡回のようでした。

◎長きにわたり教区の主教様として務められ、ご苦勞様でした。紋別に初めて来られたときのこと懐かしく思い出されます。長野に行かれましても奥さん共々お元気で過ごされることを願っています。

(吉山)

◎私にとっては雲の上のような存在の主教様と、この二年間親しい交わりをもてた事にとても感謝しています。ありがとうございます。新しい歩みの上にも感謝の

恵みが豊かにありますように。

▽新冠聖フランシス教会

厳しい冬に別れをつけ、心

もおどる春の訪れであります。が、定められているとは言え、この三月で植松主教様が退任されますことはとても淋しく、心にポツカリ穴があいた感じが日増しに強くなってきます。

主教様は二五年間、その行動力で奥様とともに、広大な北海道に点在する教会を積極的に訪れ、解りやすい説教、そして信徒と親しく交わりを持たれましたことは印象深いものがあり、そのお心遣いがうれしく、いつまでも心に残るものがあります。

特に子どもの教会では長年管理牧師としてご指導いただき、かつ温かく見守ってください。感謝のきわみであります。

激務の二五年。心身共にお疲れのことと存じます。

今後の新しいステージにおかれましても、お元気で実り

多く豊かな人生となりますことをご祈念申し上げます。

(イサク 小竹国昭)

▽新札幌聖ニコラス教会

植松主教様就任後初めての当教会への御巡回は、一九九七年四月の昇天後主日でした。この時、飯野司祭のご家族の洗礼堅信式が行われ、新主教歓迎会と受洗堅信者の二つのお祝いを合わせて盛大に行われました。

管理牧師としても、多忙の中、月の第二水曜日に「聖書講義」を開いていただき、主日以外の時も私たちの信仰の糧が与えられました。

最初の主教巡回から昨年一月二一日までに三六名の兄弟姉妹が堅信の恵みに与り、二名の聖職者がそれぞれの召命を植松主教の導きの中で歩み始めることができ、私たちがこの地での宣教の器として確かに用いられてきたことを実感致します。

ごませんべいの味が恋しくなりましたら、当教会をお訪ねくださいますように。ご夫

妻のこれからの地での生活上に神様の祝福がありますように、お祈り致します。

